

# 今年度大切にしたいキーワード

本研究計画作成試案では、小教研会員の誰もが内容を理解できるように、各部会でレイアウトや解説の方法を工夫しています。

また、学習や研究を進める上で大切にしたい事項を「キーワード」という形で提案しています。

日常の学習指導や研究推進において、十分に活用していただきますようお願いいたします。

## ◆◆◆ 国 語 科 ◆◆◆

### 主体的・対話的に言語活動に取り組む

「主体的・対話的に言語活動に取り組む」とは、子供が自らの意思で進んで活動に取り組む中で、教材や友達等と対話しながら、言葉の意味、働き、使い方等について捉えたり、比べたり、問い直したり、共有したりして、学びを更新していくことである。子供が主体的・対話的に言語活動に取り組むためには、子供の実態を把握した上で、教材との出会いの場を工夫し、子供にとって必要感のある課題を設定することが重要である。そして、教材との十分な関わりの場を保障し、自分の考えをもった上で話し合う場を設定することで、分かったことと、分かりそうで分からないことを明確にしていく。そうすることで、子供は理解を新たにしたり、言葉について自覚を深めたり、次の学習で活用したりして、考えを深めていく。

### 指導と評価の一体化

「指導と評価の一体化」とは、指導と評価を連動させ、子供自身の学習改善と教師の指導改善につながるようにしていくことである。

国語科で資質・能力を育成するためには、まず、子供の学習状況や実態に応じて単元を構想することが重要である。次に、何を、どのように評価するかという評価規準を明確にする。さらに、授業を通して、教師が評価規準に基づいて子供の学習状況を的確に見取り、次の時間や次の単元等の指導を改善していく必要がある。また、子供自身が自らの学習を振り返り、次の学びに向かうことができるよう、教師は子供の実態に応じて適切な助言をするなど、子供の学習改善につなげていくことが大切である。

## ◆◆◆ 社 会 科 ◆◆◆

### 社会的な見方・考え方を働かせる

「社会的な見方・考え方を働かせる」とは、その子らしい潜在的な見方・考え方をもとに社会的事象と向き合い、学習を進め、身に付けた知識と関連付けながら、その捉え方や意味付け方を吟味していく姿とする。

### 社会生活への理解を深めていく

「社会生活への理解を深めていく」とは、社会的事象との関わりを繰り返し、互いに学んだことを共有しながら様々な立場から考えることで、多角的に事象を捉えていく姿とする。

このように上記に見られる経験を繰り返すことで、子供は社会に関心をもち、その一員としての意識を高めたり、自分にできることを考えたりしながら、公民としての資質・能力を育んでいく。

このような子供を育成するためにも、子供の実態把握と確かな事実認識に基づく学習過程や、支援のための評価の在り方について明らかにしていく必要がある。

そこで、今年度は次のことを研究の重点としていく。

- (1) 子供が社会的な見方・考え方を働かせて資質・能力を身に付けていくための教材研究の在り方
- (2) 子供が社会的な見方・考え方を働かせて資質・能力を身に付けていく学習過程の在り方
- (3) 子供の学習を支える指導と評価の一体化の在り方

## ◆◆◆ 算 数 科 ◆◆◆

### 主体的

「主体的」を、目的意識をもって数理的な事象に繰り返し働きかけ、自分の考えをつくり上げることとする。

### 対話的

「対話的」を、自分の考えを具体物、図、数、式、表、グラフ、言葉等を用いて表現し、自ら友達へ関わりを求めて伝え合う活動を通して、自分の考えを再構築していくこととする。

そのために、今年度は次のことを研究の重点としていく。

『問いをもち、数学的活動を通して考えを深めるための場の工夫』

- 子供の問いを学習課題に高める場
- 互いの見方や考え方を理解し、考えのよさを感じ合える場
- 新たな視点から考えを見つめ直し、よりよい考えに再構築する場

このように、数理的な事象に主体的・対話的に関わり、数学的な見方・考え方を働かせる中で、新たな視点から自分の考えを再構築していく子供の育成を目指す。

## ◆◆◆ 理 科 ◆◆◆

### 教材研究と単元構想

教材研究では、学習指導要領の分析、子供の実態把握、専門分野・先行研究の調査等を行い、育てたい子供の姿を明確にすることが大切である。単元構想では、子供がどのように問題解決をしていくのかを想定するとともに、「主体的・対話的な探究」を支え、資質・能力を育成するための教師の手立てを全体計画に位置付ける。

### 資質・能力の育成と「対話」の手立て

教材研究や単元構想を通して、子供が働かせる理科の見方・考え方を具体的に想定していく。しかし、見方・考え方を働かせることが目的ではない。あくまで資質・能力を育成することをねらいにおいて、授業改善を重ねていくことが大切である。

また、授業づくりでは、子供が他者に関わろうと対話する状況をつくるために手立てを講じる。ここでも、対話を目的とするのではなく、対話を通した資質・能力の育成をねらいとすることが大切である。

## ◆◆ 生活科・総合的な学習の時間 ◆◆

### 教材の価値を探る

子供たちが単元と出会ったとき、教材を自分事として捉え、自分の思いや願いをもつことを目標としたい。学校や地域の特性、子供の発達段階や既習経験等の実態をよく把握した上で、教材がもつ多様な価値を多面的に分析する必要がある。各教科等との関連を踏まえ、子供が夢中になって取り組み続けられる教材になるかを検討する。

### 取組を見直したり充実させたりするための授業の構想と授業での教師の役割

話合いにより、自分たち自身で自他の取組のよさに気付いたり、今後の取組の見直しをもったりすることができる。そのために、教師は子供の意識の把握を行い、授業の方向性を見直していく必要がある。

## ◆◆◆ 音 楽 科 ◆◆◆

### 主体的・対話的で深い学びにつなげるための学習過程の工夫

学習過程において子供一人一人が明確な課題を持ち、自らの意思と力で課題の解決に向けて取り組むよう様々な手立てを講じる。また、音楽的な見方・考え方を働かせながら、友達と対話を通して交流し、互いの気付きを共有したり、感じ取ったことを共感したりするなどの場の設定や教師の働きかけを工夫する。

### 音楽と豊かに関わるための題材構成や教材選択の工夫

音楽の構造等を分析し、適宜、〔共通事項〕を要として各領域や分野の関連を図るなど、効果的な学習展開となるよう題材構成や教材選択を工夫する。また、学校や地域の実態に応じて題材構成を工夫し、学んだことや音楽活動と学校内外における様々な音楽活動とのつながりを意識できるようにする。

### 一人一人のよさや可能性が生きる評価の工夫

指導と評価の一体化を図り、「子供にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、指導の改善に生かしていくとともに、子供自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。

## ◆◆◆ 図画工作科 ◆◆◆

### 子供が造形的な見方・考え方を働かせ、つくりだす喜びを味わうための「表現の始まり」の工夫

題材名や題材との出合わせ方等の題材提示の仕方、材料や用具、場所等を吟味し、工夫する。また、子供が自他の取組や作品のよさを感じ取り、発想を広げたり活動意欲を高めたりすることができるよう、互いの思いやイメージ等を自由に交流できる時間や場、学習形態等を工夫する。

### 子供が造形的な見方・考え方を深め、つくりだす喜びを味わうための「表現の過程」の工夫

技法等の紹介や共有、試行錯誤できるような時間や場所の確保、子供の導線を考えた各コーナーの設置等学習環境の工夫に取り組む。また、子供が自他の表現のよさや美しさを感じ取り、自分の表現を見直したり、さらに工夫したりしていくことができるよう、支援を工夫することで、「もっとつくりたい」という意欲や自己肯定感を高めることにつながる。

### 子供が造形的な見方・考え方を働かせ、つくりだす喜びを味わうための「指導と評価」の工夫

教師が子供のイメージに寄り添い、共感的に指導・支援するためには、活動を通してその子供がどのような造形的な見方・考え方を働かせているかを捉えることが大切である。中でも教師の子供への声かけは、活動や作品へのイメージに大きく影響を与える。

## ◆◆◆ 家 庭 科 ◆◆◆

### 指導の効果を高める題材構成

子供の実態を踏まえた上で学校や地域の特色を生かし、育成する資質・能力を明らかにして、関連する内容項目や指導事項の組合せを工夫したり、学校行事や他教科と関連させたりするなど、指導の効果を高める題材構成を行う。その際、生活の営みに係る見方・考え方のどの視点を重視するのかを適切に定めるようにする。

### 学びを深める手立て

学びを深めるには、子供が自ら生活の問題を見付けて課題を設定し、主体的に課題の解決に取り組むことが大切である。そのために、日常生活を見直す活動を取り入れて課題を設定できるようにする。そして、計画、実践、評価・改善という一連の学習活動を重視した問題解決的な学習を充実させ、学習した内容を実際の生活に活かす場を設定する。さらに、目的や視点を明確にした上で、考えの背景を話し合う場等をつくることで、対話的な学びを促し、自分の考えを明確にしたり、互いの考えを深めたりすることができるようにする。

### 指導と評価の計画の作成

題材の目標を明確にした上で、題材の評価規準と指導の計画を作成する。その上で学習活動に即して題材の評価規準を具体化する。さらに、家庭科の学習の特質や評価する時期や場面を精選し、適切な評価方法を設定する。その際、必要に応じて「指導に生かす評価」や「記録に残す評価」を位置付けるなど、一人一人の観点別の学習状況を的確に捉え、個に応じた適切な指導や支援につなぐことができるようにする。

## ◆◆◆ 体 育 科 ◆◆◆

### 子供自らが主体的に運動や健康づくりに取り組むための授業づくり

主体的に運動や健康づくりに取り組むためには、運動や教材、学習活動そのものの魅力に出合うことや、思考・判断を働かせながら、学びの深まりが保障されることが重要である。そのためにも、運動の魅力や特性を分析し、子供が身に付ける資質・能力を明確にする必要がある。その上で、目の前の子供の経験や運動技能、願いや思いを捉え、その運動に出合う子供たちが歩み進めるストーリーを思い描く(内的要因)ことで、子供が学ぶ環境を整え(外的要因)、子供が学びたくなる授業づくりを丁寧に行うことが重要である。

### 学習のねらいを明らかにした学習過程の工夫

運動の方向性を理解し、現在の自分と目標とする姿との違いから、何ができるようにする必要があるのかを見付けられる学習との出会いを大切に。そして、丁寧な子供の実態把握から問いの傾向を掴み、身に付けさせたい資質・能力と整合性をもちながら、学習課題を吟味することが子供の切実な問いへとつながる。さらに、体育や保健の見方・考え方を活用させながら新たな問題に向き合うためにも、教師や仲間との対話的な関わりを充実させていく。

### 自らの学習を修正し、問いを見いだしながら動きの高まりを求めるための振り返り活動

自らの目当てや問いの解決を図る計画は、一時間毎に更新されるだけでなく、一時間の中でも何度も修正を加えられる必要がある。現在の自分を適切に振り返り、高まりを求め、自分のよさを伸ばしていくために、具体的な動きや生活実態の評価とその子の内面の動きまで聞き合える活動の充実や、自己を適切に捉えるための学習カードやICTで撮る動画等の活用の仕方を工夫する。

## ◆◆◆ 道 徳 科 ◆◆◆

### 主題の分析

道徳科の授業づくりは「子供の実態把握」と「内容項目の解釈」から成り立つ「主題の分析」を行うことが大切である。主題の分析を行うことによって、ねらいが明確になり、学習指導の構想や発問、板書等に役立てることができる。また、本時における子供の多様な考え方を予測し、一人一人の考え方や感じ方、その子らしさを見いだしたり、子供の成長や変化を捉えたりする手がかりとすることができる。

### 学習指導の構想

子供の主体性を促し、対話的な状況を生み出すためには、「深め合う時間」を中心に据えた授業を展開することが有効である。今年度は「深め合う時間」を充実させるために、次のことに重点を置きたい。

#### ①子供の発言の違いを捉える

「内容項目同士の違い」と「考え方の視点の違い」から、子供の発言の違いを捉えると教師が揺さぶりをかけたり、立ち止まる場をつくったりするなどして、対話的な状況を作り出すことができる。

#### ②対話的な状況を予測する

子供のどの考え方や発言が関わり合うと、どのような違いや矛盾、葛藤が生まれるのか、子供が自分を見つめようとするのかを事前に予測し、教師の働きかけを幾通りも考えておく必要がある。

③子供の発言を生かし、子供の思考の流れに沿った働きかけを考える  
大切にしたいのは、子供の話を興味深く聴く教師の姿勢である。事前に考えた働きかけに固執せず子供への反応や変容をその都度捉えながら、よりよい働きかけを柔軟に考えていこうとする姿勢を大切にしたい。

## ◆◆ 外国語活動・外国語科 ◆◆

### 単元構成の工夫

バックワードデザインに基づき、ゴールの姿を明確にした単元構成をすることにより、子供は見通しと目的意識をもって活動に取り組む。また、新しく出合う語彙や表現に慣れ親しむ活動と、既習の語彙や表現を活用する活動を繰り返していく単元を仕組むことで自分の考えや気持ちをより豊かに伝え合うことができる。

### 言語活動の充実

単元の目標を踏まえて、実際に英語を使用し互いの考えや気持ちを伝え合う必然性のある場面を設定する。中学年では、子供が興味・関心をもつような題材を扱い、自分のことを話す場面を設定することで既習表現に慣れ親しんだり、表現がより適切になったりする。高学年では、自分のことに加え、相手や身の回りの物に関する事柄について伝え合う場面を設定することで、使う表現を選択・自己決定するために思考し、相手意識を育むことができる。

### 評価の工夫

CAN-DO リスト形式での学習到達目標を作成して、子供が身に付ける能力を明確にしたり、ループリックを作成して、言語活動の評価基準を明確にしたりすることで、教師と子供がゴールの姿を共有することが大切である。

## ◆◆◆ 特別活動 ◆◆◆

### 人間関係形成 <築きたい人間関係>

「個と個」や「個と集団」の関わりの中で、互いのよさを生かし、協働して取り組み、よりよい人間関係を築こうとする視点。必要な資質・能力は、集団の中において、特別活動の学習過程全体を通して、個人と個人あるいは個人と集団という関係性の中で育まれると考えられる。違いを認め合い、みんなと共に生きていく力を育てる。

### 社会参画 <つくりたい社会>

児童が現在、そして将来に所属する様々な集団や社会に対して積極的に関わり、よりよいものにしていくとする視点。必要な資質・能力は、自発的、自治的な活動を通して、個人が集団へ関与する中で育まれると考えられる。よりよい集団や社会をつくらうとする力を育てる。

### 自己実現 <なりたい自分>

将来を見通して、今の自分にできることを考え、よさや可能性を生かして実践しながら、よりよい自分づくりを目指す視点。必要な資質・能力は、自己の理解を深め、自己のよさや可能性を生かす力、自己の在り方や生き方を考え設計する力など、集団の中において、個々人が共通して当面する現在及び将来に関わる課題を考察する中で育まれると考えられる。なりたい自分に向けてがんばる力を育てる。

## ◆◆◆ 特別支援教育 ◆◆◆

### 主体的・対話的に取り組む

教師がそれぞれの子供の実態を的確に把握し、子供の「強み」を生かした単元を構想したり、子供の願いや教育的ニーズに基づく指導や支援を行ったりすることで、子供は見通しをもって主体的に取り組み、学ぶ楽しさを味わうようになる。また、子供が安心できる環境を整え、教材や題材、教師や友達との関わり方を工夫したり、自らが学習を進められるような場を設定したりすることで、子供は感動や分かる喜びを味わうことができ、様々な対象や事象（人、もの、こと）、自分と対話しながら粘り強く学習に取り組むことができると考える。

### 学びを自らのくらしに生かす

学校生活の学びで得られた成功体験を自らのくらしに意識的に反映させることで、子供は「自分にもできそうだ」「やってみたい」と自信をもって生活することができる。そのためには、子供の個性や能力を的確に把握して、それを基に個別的教育支援計画や個別の指導計画を作成し、それぞれの子供に合った支援を行う。さらに、学校生活での学びを自らのくらしに生かすことができるように、家庭や地域と連携していく。子供の教育的ニーズに基づいた計画的・継続的な支援の下、子供が身に付けた見方・考え方を働かせて日々「分かった」「できた」を積み重ねることが生きる力となり、将来の自立的な社会参加を支えることにつながると考える。

## ◆◆◆ 保 健 ◆◆◆

### カリキュラム・マネジメント

学校教育においては、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科横断的な視点で組み立て、その実施状況を評価して改善を図ることを通し、教育活動を組織的かつ計画的・継続的に行うこと、いわゆるカリキュラム・マネジメントに努めることが求められる。保健教育においても、体育科保健領域、特別活動、総合的な学習の時間等、関連する教科等でそれぞれの特徴に応じて実施し、相互を関連させて指導していく。その際、個々の子供が抱える課題を受け止めながら、その解決に向け、カウンセリング等の個別指導を関連させて、子供の発達を支援することも重要である。

### 指導と評価の一体化

子供一人一人の資質・能力をより確かに育むため、学習指導要領に示されている目標に照らし、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点について評価規準を作成する。教科等の特徴を踏まえて、適切な評価方法を工夫することにより、学習評価の結果が、子供の学習や教師による指導の改善に生きるものとする。